



杉八だより

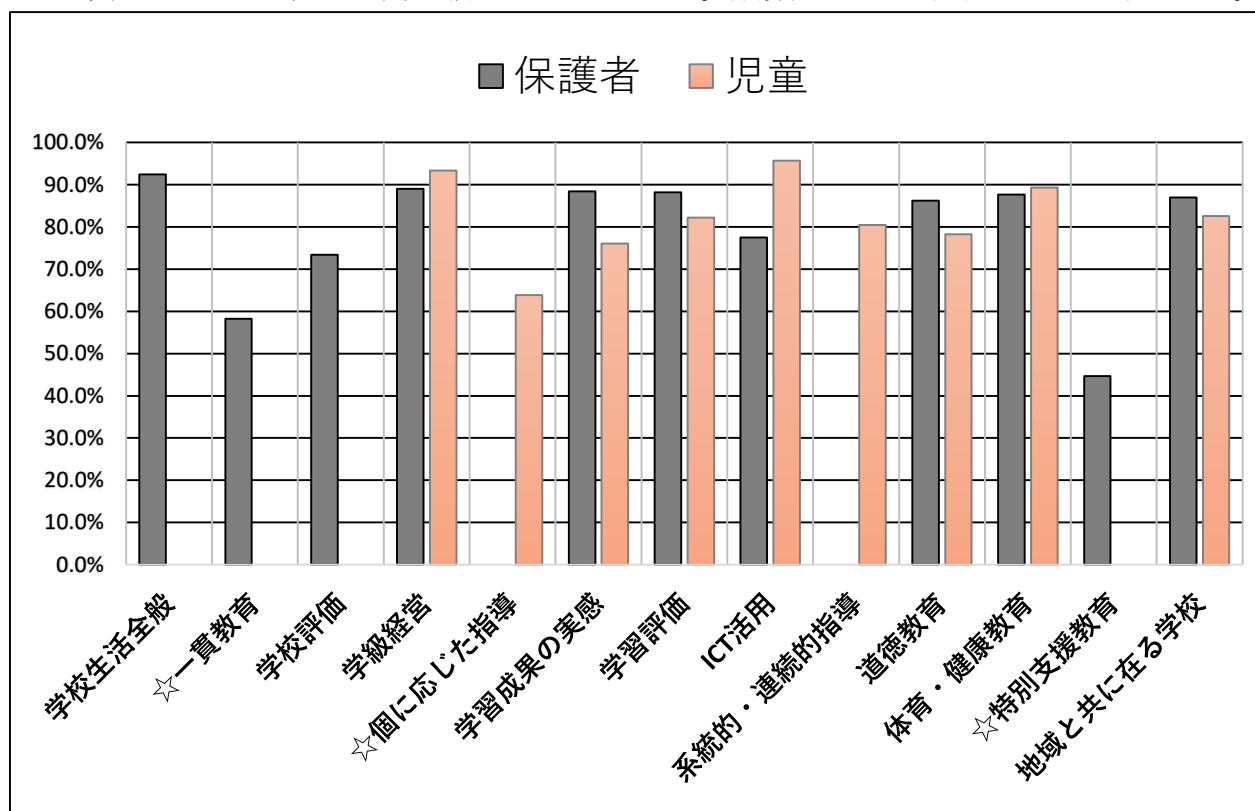
【平成29年度教育調査お知らせ号】 平成30年3月12日

校長 黒川 雅仁

今年度の教育調査にご協力いただきありがとうございました。調査結果をまとめましたのでお知らせいたします。以下の棒グラフは、各設問に対する保護者と児童の肯定率を表しています。また裏面には、同一項目における昨年度の肯定率との比較を保護者・児童別に示しました。

(肯定率…各設問に対して「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答があった割合。)

なお、児童は5・6年生を対象に調査を実施しました。保護者からの回収率は93.0%でした。



学校生活全般については9割を超える肯定率と、大変にありがたい評価をいただきました。しかし、各項目においては保護者・児童それぞれに肯定率が7割に満たない項目(☆)が見られましたので、その設問と肯定率を示し、学校としての考えや方策(枠囲み)をお伝えいたします。

1 小中一貫教育

「連携する小・中学校による小中一貫教育(小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等)が進められている。」・・・58%(保護者)

この項目については、昨年度と比較して2割近い肯定率の上昇が見られました。これは本校からの通信物や小中一貫教育ニュースレターなどを通し、小中一貫教育の理念や具体的な取組のねらい、そして児童生徒が実際に活動している様子を継続してお伝えしてきた成果が表れてきているものと考えます。

しかし6割弱というのはまだ不十分な肯定率であり、小中一貫教育はまだ推進途上といえます。低学年での杉四小との交流、両校のよさを生かした中学年での総合学習カリキュラムの共同実施、高学年における杉四小や高円寺中と協働した学校行事や地域貢献活動など、近隣三校でより一層連携しながら、32年度の新校開設に向けた小中一貫教育のより一層の充実を模索していきます。

2 個に応じた指導

- ① 「学校の授業によって、分かることやできることが増えている。」・・・68%（児童）
- ② 「先生は、授業で自分ができたことを誉めてくれたり、間違えたところを教えてくれたりしている。」・・・76%（児童）

①の項目においても、昨年度と比較して2割近い肯定率の上昇が見られました。1学期に実施した各学力調査の結果や日常的な学習の様子から、特に算数では習熟度別編制や個々の理解度に合わせた学習展開を工夫したり、学校支援本部と連携した放課後算数補習教室を実施したりする等、個に応じた指導に努めてまいりました。

その一方で、向上が見られたとはいえ①の肯定率が7割に満たず、また②においては昨年度と変化がない状況から、児童一人一人が学習成果をより感じられる授業改善が必要であると考えます。まずは学習環境として定着してきたICT機器を活用し、学習内容への興味関心や表現意欲を高めていきます。また、児童全員が学習のめあてを確実につかみ、授業の最後には「今日は〇〇が分かった」「〇〇ができるようになった」と実感できるような授業展開をさらに工夫します。そして一人一人の学習状況を継続的に把握しながら、個に応じた発展・補充的な学習にも取り組んでいきます。

3 特別支援教育

「学校は、子ども達の発達に関する課題など、障害理解を深める情報を提供している。」
・・・45%（保護者）

東京都では特別支援教育第3次計画により、通常学級における特別支援の必要な児童への支援の充実を図るよう方針が示されています。本校でも「すぎはち教室」（特別支援教室）が今年度からスタートし、学校だより等を通してその取組を紹介してまいりました。また特別支援学級が開設される新校では、校内での日常生活の交流を通して特別支援教育への理解が深まることが期待されています。

本校では従来から、総合的な学習の時間や学校行事等で障害者の方を招聘してお話を伺ったり、児童が体験的に学習できる機会を設けたりしてきました。今後は通常学級におけるインクルーシブ教育の実現に向けて、道徳授業や学級活動等を軸に、児童が自分や友達の個性に気付いたり、他者との差異を受け入れたりしながら共に学びに向かう教育活動の充実や、児童一人一人にあった合理的配慮がなされる教育環境づくりに取り組んでいきます。

☆昨年度教育調査の肯定率との比較

